

# 14 「おいでまい」の品質向上に向けた生産支援

## ■ 管内「おいでまい」生産者 ■

(西讃農業改良普及センター 眞鍋雄二、川上清、宮崎勝、秋山修一、〇加藤大貴)

### ●対象の概要

良食味で高温登熟性に優れる県オリジナル水稲品種「おいでまい」は、平成23年度から現地試験栽培を実施し、平成25年度には一般栽培が開始された。

管内で栽培される水稲の約4割を占める「ヒノヒカリ」は、出穂期以降の高温により1等米比率の低下が問題となっており、平成25年産の1等米比率は7.6%の中、「おいでまい」は69.2%と極めて良好であった。管内では、一般栽培を開始した平成25年産が10.3ha(19名)、平成26年産では16.0ha(24名)と作付が拡大している。

### ●課題を取り上げた理由

「おいでまい」は「外観品質1等、タンパク質含有率6.5%以下」を目標としている。平成25年度、(財)日本穀物検定協会主催の米の食味ランキングにおいて、四国4県で育成された品種として初めて「特A」の評価を獲得したが、平成26年度以降も安定した品質の生産が課題である。

西讃管内は、野菜の作付が盛んなことから地力が高く、残存する窒素の肥効が多いなど、品質が低下しやすい条件にあるため、現地に適応した肥培管理など、高品質・良食味生産に向けた技術の確立と栽培農家の意識啓発が重要である。

### ●普及活動の経過

#### 1 栽培講習会による技術支援

適期の栽培管理を徹底するため、育苗・初期管理から穂肥時期における栽培講習会を実施した。

#### 2 栽培基準田の設置と現地巡回

生産者ごとに栽培基準田を設置するとともに、イメージカラーの「ピンク色」の看板を掲示し、周辺農家や消費者への「おいでまい」の普及推進を図った。

また、JAとの連携により、田植後、出穂期及び成熟期に現地巡回や生育調査を実施し、適切な栽培管理の支援を行った。

基準田の看板には、連絡用ファイルを設置し、

巡回時には場ごとの管理のポイントについて情報提供した。



JA職員との現地巡回

#### 3 実績検討と食味官能試験

実績検討会を開催し、基準田の調査結果を報告するとともに、生産者ごとに個票を返却した。また、検討会では、食味官能試験を行い、タンパク質含有率に差がある「おいでまい」の食味を比較したほか、栽培農家の意見交換を実施した。



実績検討会での食味官能試験

#### 4 県外研修による意識啓発

県外研修を開催して生産者同士の交流の場を提供するとともに、(株)サタケでは色選の実演を、近畿中国四国農業研究センターでは高温障害に対応した技術対策について学ぶことで品質向上に対する意識啓発を図った。



近畿中国四国農業研究センターでの県外研修

### 5 食育支援によるPR活動

地域の小学校の保護者からの要望を受け、食育教育として「おいでまい」の実習田における田植えや稲刈り体験の指導を行った。

また、実習田に児童の写真付き看板を設置し、活動のPRとともに「おいでまい」の知名度向上を図った。



三豊市内小学校の実習田

## ●普及活動の成果

### 1 1等米比率の向上

関係機関と連携し、基本技術の徹底に向けた支援や、異常気象に対応した情報提供により、平成26年産の「おいでまい」では、89%と前年産(69%)を上回る非常に高い1等米比率を確保することができた。

表—1 「おいでまい」の栽培経過

区分	平成24年産		平成25年産		平成26年産	
	面積	1等比率	面積	1等比率	面積	1等比率
西讃	2.1ha (4名)	73%	10.3ha (19名)	69%	16.0ha (24名)	89%
県計	28ha (29名)	94%	650ha (1,367名)	87%	730ha (1,400名)	71%

### 2 食味分析の調査結果

J Aが実施した食味分析の結果、全生産者の食味スコアの平均が77.9点となり、目標の75点を上

回る成績となった。しかし、タンパク質含有率(水分14.5%換算値)については、平均6.6%となり、目標の6.5%以下よりやや高くなった。

表—2 食味分析の調査結果概要

区分	水分	タンパク (水分14.5%換算)	食味スコア
目標	14.5~15.0%	6.5%以下	75点以上
H25管内平均	14.1	6.7	76.0
H26管内平均	14.5	6.6	77.9

### 3 生産者間の連携強化

「おいでまい」マイスター3人を核とした生産者間の情報交換の場が構築され、生産者目線で連携する中、前年産より品質・食味が向上し、改善に向けた意識は高まっている。

## ●今後の普及活動の課題

### 1 基本技術の徹底による高品質・安定生産

平成26年産では、充実不足による等級落ちが一部で見られたが、適正な管理により回避することができることから、引き続き、講習会や情報提供のほか、西讃普及センター独自の心構えを記した「「おいでまい」西讃八作」と「西讃八作のチェックポイント」の活用により、生産者の全量1等米生産を目標に支援する。



「おいでまい」西讃八作

### 2 栽培技術の確立

園芸地帯である西讃管内では、前作の野菜作の影響により葉色が濃く推移し、倒伏したほ場も見られた。今後も継続して、肥培管理など地域に適應した栽培技術の確立に向けて、実証ほの設置を行う。

また、「おいでまい」の2年連続「特A」評価の獲得を受けて、地域からの関心も高まっており、「おいでまい」の生産振興を起爆剤に、水稻全体の品質向上に向けた意識啓発を図る。